

2018年 IEA 国際会議出張報告

2018年8月

国際委員会副委員長 雑賀幸哉

1. 開催概要

IEA (International Engineering Alliance、国際エンジニアリング連合) は国際的工学教育プログラム認定の3協定 (ワシントン協定、シドニー協定、ダブリン協定) と国際技術者資格の4協定 [APECEA (APEC エンジニア協定)、IPEA (国際エンジニア協定)、IETA (国際テクノロジスト協定)、AIET (国際テクニシャン協定)] を束ねる国際協議の場で、技術者の国際流動性を視野に、技術者教育と資格の国際同等性の確保を目的とした活動を行っている。本年は2018年6月24日(日)~6月29日(金)に、ロンドンのミレニアムグロスターホテルで開催され46団体 152名が出席した。我が国からは、岸本喜久雄 東工大教授 (APEC/IPEA エンジニア・モニタリング委員会会長)、日本技術士会国際委員雑賀副委員長、文科省、当会事務局員、JABEE など7名が参加した。

6日間の会期中、前半が教育認証、国際技術者登録に共通する事項を議論。中盤で教育認証にかかる個別会合、終盤に国際技術者登録にかかる個別会合が設定された。個別会合においては、オープンセッションと、正規メンバーのみ参加するクローズド・セッションがあり、クローズド・セッションにおいて、レビュー結果の審議や、準メンバーの扱い等が審議された。

2 サマリー

2-1 Competence Agreements の改訂

申請者個人単位で IEA の PC に合致しているか否かを審査する従来の方法に加え、各国のエンジニア資格自体が PC に準拠してれば、自国のエンジニア資格をもって、APEC エンジニア及び IntPE の審査に代え得るとする方法も採択した。今回提示された協定案では「グループ1、グループ2」あるいは、「カテゴリー1、カテゴリー2」といった区分の表現はなされていないが、協定の具体的な書き振りについては、後日各国よりコメントすることとされた。また、各国のエンジニア資格が PC に合致するか否かのレビュー方法については、ワーキンググループを編成して検討することとなった。

2-2 Train the Trainer Session

参加者が自国に帰って自国レビュワーを養成するための研修という位置づけで、今回はその第1回目。第1回目ということである程度試行錯誤的などころはあったがこれに参加した。他には、マレーシア、オーストラリア、アメリカ、パキスタン、インドネシア、南ア、台湾、シンガポールが参加。

2-3 レビューハンドブックの改訂

加盟国同士のレビューの方法を記したレビューハンドブックの改訂を行うワーキンググループが設置された。国家の技術者登録が **Competence Agreement** に沿ったものかどうかのレビュー方法についても、このワーキンググループで検討することとなった。

2-4 メンバーの加盟

ペルーが **APEC** エンジニアについて、パキスタンが **IPEA** について、正規メンバーとして認められた。

2-5 所感

- (1) 国際的に技術者として認められるためには、大学においてエンジニアリング課程を修了していることを重視している風潮を感じた。
- (2) **Competence Agreements** の改訂の手続きが、いささか拙速であると感じた。

以上



写真：会議場の様子